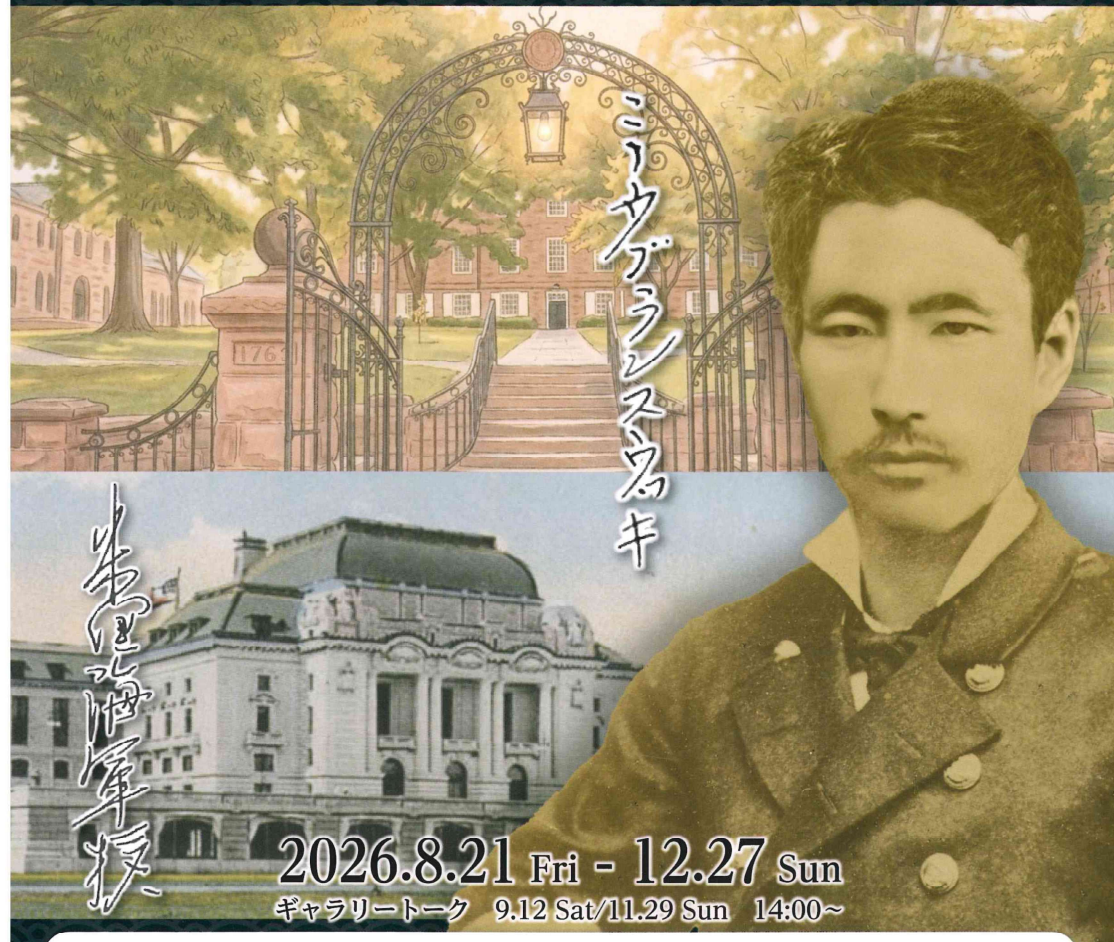


# KOROKU

## -海舟の息子・勝小鹿の生涯-



米海軍校

ニューブランズウィック

2026.8.21 Fri - 12.27 Sun  
ギャラリートーク 9.12 Sat/11.29 Sun 14:00~

大田区立 勝海舟記念館  
Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

- 開館時間 午前10時~午後6時  
※毎週月曜(祝日の場合は翌日)休館  
10月26日(月)、27日(火)は一部展示替えのため休館
- 入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)
- 所在地 東京都大田区南千束2-3-1
- 電話 03-6425-7608



※グッズやイベント等の最新情報は、右二次元コードからホームページをご覧ください。



# KOROKU

## 勝海舟記念館企画展 海舟の息子・勝小鹿の生涯

2026年8月21日(金)~12月27日(日) ※10月26日、27日は一部展示入替のため休館

慶応3(1867)年10月の大政奉還、続く同年12月の王政復古を経て、日本国内では京都新政府と旧幕府との間で戊辰戦争が起きました。この最中、国家のために西欧の技術・文化を習得しようと海外へ留学していた若者達がいいます。その一人が勝海舟の長男・勝小鹿(1852~92)です。海舟の教えを受けて幼少期から勉学に励み、期待をかけられて育った小鹿は、慶応3年7月にアメリカへ渡り、ラトガースカレッジ・グラマースクール、次いでアメリカ海軍兵学校で10年に及ぶ留学生生活を送りました。明治10(1877)年の帰国以降、父が創業に携った大日本帝国海軍に入りましたが、間もなく病を患い、同25年に志半ばで早逝します(享年41)。このため、小鹿の存在と事績は父の陰に隠れがちで、ほとんど知られてきませんでした。

本展では、当館で新たに見出された複数の小鹿関連資料の中から、特に留学時代にまつわる手紙や書類などの資料を中心に紐解き、また、貴重な刀や肖像写真なども出陣し、その知られざる生涯を明らかにします。

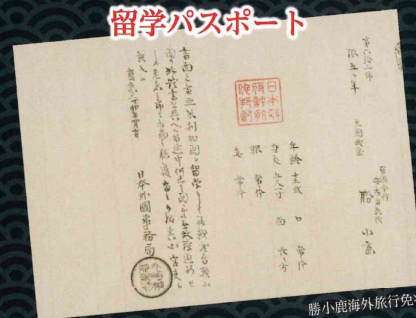
当館初の刀剣展示  
小鹿の刀公開!

勝小鹿所用海軍刀/短刀



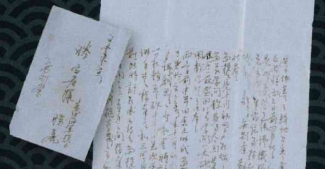
復元してよみがえる帰国後の姿  
勝小鹿復元肖像写真

留学パスポート

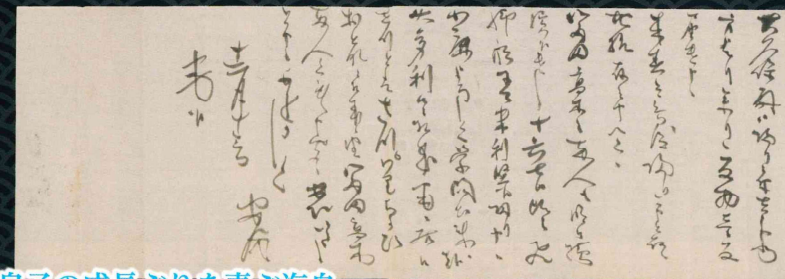


勝小鹿海外旅行免状

アナポリス発 父への手紙



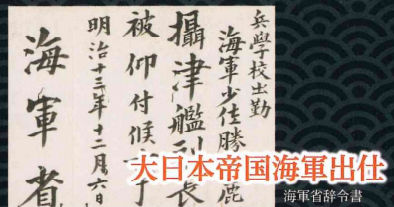
勝海舟宛勝小鹿書簡



息子の成長ぶりを喜ぶ海舟

小鹿が明治10年以降、海軍軍人として身に着けていた海軍刀(脇差)と、短刀。どちらも江戸時代に作られたものです。

本展では、新たに研ぎ出され往時の輝きを取り戻した姿をご覧いただけます。



留守宅宛勝海舟書状